



しかはま自然観察会

のらえもん

『 人も 自然も みんな友だち 』

2024 年度

No. 17

2025. 02. 15~16

第17回活動 土呂部のごちそう

土呂部には、ごちそうがたくさんありました。
暖かい太陽の光。
真っ白い雪。
イタヤカエデの木々。
ワラビ・ゼンマイ・ヤシオマスの刺身・イワナの塩焼き。
あたたかい女将さんのもてなし。
コタツでくつろぐ子どもたちとの一時や
発表会に向けての打ち合わせ。
そして、
オリオン座、満天の星空。

1, 日 時：2025年2月15日（土）～16日（日）1泊2日

2, 天 気：2日間とも快晴 無風

15日13時15分頃（雪遊び）気温 7, 4℃

20時00分頃（星の観察）気温-2, 6℃

16日 6時20分頃 気温-2, 6℃

室内 3, 2℃

12時00分頃 気温12, 0℃

直射日光16, 2℃

2, 場 所：栃木県日光市土呂部 標高942m

民宿 水芭蕉苑 Tel 0288-97-1214

3, 集 合：現地12時頃 解散2日目13時頃

4, 参加者：総数8 内訳 大人 2

専門生 1

小学 1

幼児 1

スタッフ 3

5、活動の様子

2日間とも快晴でとっても暖かく、風はなく、雪遊びには最高の日よりだった。

おかげで、子どもたちは存分に雪の中を歩いたりソリをしたりして、冷たいはずの雪と戯れた。

里山の雪の上に大の字になった大人たちからは、青い空・赤松の松ボックリ・白樺・シジュウカラやエナガの野鳥・遠くの山々を見渡ししながら、思わず「静かだなー！」という感嘆の声が漏れてくるのだった。

民宿水芭蕉の女将さんは、相変わらず元気いっぱい私たちを歓迎してくれた。

確かに、ここには、利用する物だけが感じる「恵み」がいっぱいあった。

1日目（2月15日）

12時過ぎ、全員集合。

コタツの部屋で昼食。

昼食をしながら、3月2日の発表会に向けての打ち合わせをする。写真のポイントやプロジェクターのことを話していると、川井くんがパソコンをコタツの上に乗せる。すごい！さすがデジタル人！頼りになる若物だ。

13時過ぎ、メイプルを求めてオホツパの沢を登る。イタヤカエデの森の静寂が近づいてくる。樹液採取の木々を求めて森の中に入っていくと、幹に番号がつき、穴からタンクに通じる管を見つける。管の中をしっかりと見るのだから、水滴のようなものの動きがない。タンクの中は空っぽ！まだ、樹液を出していないようだ。

「飲みたかったなー！」と嘆きの主は、今回は初めての参加の田島家族。

「しょうがない。こういう時もあるさ。」と、慰めるのは長老山口さん。

あとで、女将さんに聞くと、「時期が少し早いし、もう少し暖かくなしないと」ということだった。

イタヤカエデの幹の特徴や落ち葉を確かめ、メイプルをあきらめて、もう少し道を歩くと、除雪の塊で道はふさがれていた。ゆうくんは、早速ソリ滑りに挑戦。ジャンプをつけて滑ってくる。「尻が痛い！」といいながら、うれしそう。そのうち、大人も挑戦してみる。

雪の塊の「邪魔者」にしかみない大人に比べ、ソリ遊びに発展させる子どもの柔らかい感性には感心する。

18時から、ゆうきくんの「いただきます」で、楽しい夕食。「うまそー！」「これ、なーに？」と声が上がる。森の恵みがいっぱいだ！ヤシオマスの刺身・イワナの塩焼き・ワラビ・ヤマドリゼンマイ（ここではカクマンというようだ）・手打ちそば・大根の煮付け。どれもしみじみ美味しく、お酒が進みすぎる。

20時から、春日さん講師による星の観察会。

昼間溶けていた歩道は、-2, 6℃の世界でカチンカチンに凍っている。見上げると無数の星。南の空に有名なオリオン座が、北を見ればカシオペア座が、その右の方にちょっと暗い真北・北極星がみえた。「流れ星は、見えないかなー？」と、つぶやくゆうきくん。寒いので、そそくさとコタツへ足を向ける人たち。一人、星を追いかけてシャッターチャンスを狙うのは、若きホープの川井くん。だ。「やっ、と、いいのが撮れた！」と、すごい集中力。

就寝前の一時は、みんなでトランプを楽しむ。「ばばぬきをやろう!」と、ゆうきくん。すかさず、「じじぬきでしょ」と、横やりがはいる。3回やって、「おやすみなさい!」と、それぞれの部屋に消えて行く。

適度な雪遊びの後は、よく食べ飲み・よく学び・よく遊んだのだった。

2日目(2月16日)

外気は-2.6℃。「今日は、暖かいネー。いつもは-7℃だからネー。」と、女将さんはつらつと言う。東京では、-7℃には絶対ならない。下がっても、せいぜい-3℃がいいところだ。

ゆっくり朝食を食べ、9時30分過ぎに出かける準備をはじめた。

ソリの上にかんじきを置き、スコップ2丁を持って里山の入り口へ。奥の、鹿侵入防止の入り口は、雪で埋まっている。スコップで雪を取り除き、やっと開閉できるようになった。この作業で、体はポカポカ!

かんじきをつけている者は、何がなんだか分からず、四苦八苦。どこに紐を通せば靴に固定されるのか、皆目見当がつかないのだ。それでも、なんとか靴にくくりつけて、歩き出す。「オッ、いいジャン!ぬからないよ!」と、喚声が上がる。

がに股スタイルで、真っ白な雪の上を歩くと、大きな輪がつくだけでぬからない!これなら、雪の上を自由自在に動けそう。夏には行けない所にも、雪が積もればこのかんじきでなら行ける。だから、猟師は、かんじきをはいて熊や鹿をうったのだ。

先人の必要から生まれた道具の素材は、里山にある。材料は、粘りのある木を利用している。マンサク・クロモジ・リョウブ・エゴノキ、そして竹などである。今は金属製のものもある。スノーシューは、西洋式かんじきのようなものだろう。

私が持っているかんじきは、藤原の民宿「樹林」(きりん)の主・惣一郎さん(故人)が20年前に作ってくれたものだ。どちらかというと、わかんと言われるタイプではないか。

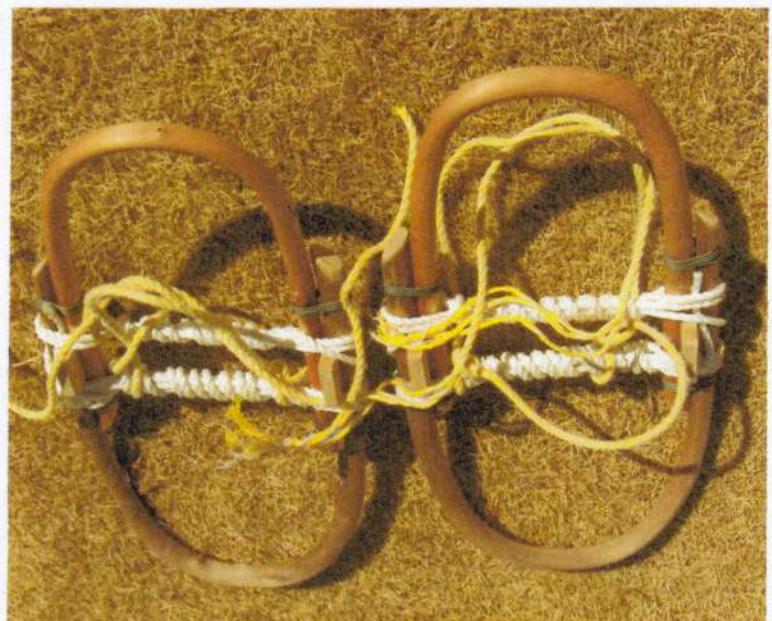
かんじきをつけて、里山の中腹に向かう。赤松と白樺が、のらえもんを歓迎してくれる。ここまで歩いてきただけで、「あつい、あつい。」と、雪の上に大の字になってねそべる人も。

ゆうきくんは、早速ソリ滑り。はじめは要領を得ず、なかなか滑ってくれない。が、コースが出来上がってくると、どんどん滑るようになった。

長いコースを一人で滑って「ヤッホー!」の喚声をあげる。

そのうち、お父さんとの二人乗り。白銀を気持ち良く滑って行く。川井くんは、動画を取りながらだ。滑っては登り、それを何回くり返したのだろう。

「腹減った」と、ゆうきくん。



お昼は、宿のコタツの部屋だ。女将さんご好意のお弁当は、特大のおにぎり2個。
「1個で、満腹！」という大人を尻目に、ゆうきくんはもくもくと2個平らげた。
デザートは、箱に詰められたミニチョコ。はじめの1個を食べた後、ジャンケンポンをして、勝った者が食べて行くゲームだ。「最初はグー、ジャンケンポイ」に熱が入る。年少のリンちゃんが、一番沢山食べたのだった。

1時過ぎ、楽しい思い出を沢山作ってくれた土呂部に、グットバイ！

6、ふり返りの感想

- チョコジャンケンが、たのしかった。

ゆき、そりが、たのしかった。

メープルシロップはたべられなかったけど、たのしかったです。

きのこのごはん、いわなが、とてもおいしかったです。

ゆきあそび つめたいけれど たのしいな

くりしま幼稚園年少

- そりが、たのしかったです。

めーぷるしろっぷがたべられなかったけど、たのしかったです。

ごはんが おいしかった まんぷくだ

栗島小1年

- 親子共々、とても良い経験になりました。

子どもたちの生き生きした良い顔を見られて、とてもうれしかったです。

木の恵みに、人は生かされていることを感じました。

机上の考えだけでなく、実際に体験することが、これからの環境問題の解決につながると思いました。

星もきれいで、感動しました。

雪体験 森の自然に 感謝です

母

- 長くつでは、ももまで埋まってしまった雪道。

かんじきをはくと、おどろくほど歩きやすかったです。

子どもたちとたくさんソリ遊びができ、楽しかったです。

先人の 智慧を実感 かんじきで

父

- 今年は、メープルの採取ができず、非常に残念でした。

しかし、雪山の中の森を歩くのは、とても新鮮で楽しかったです。

そして、一日目の夜、何十回もトライして撮れた星空の写真はとても綺麗でした。

雪の夜 星の瞬き 数えては

HAL東京1年

- また来たよイタヤカエデの幹に触れオレは元気オマエも元気か

- 大の字に寝ころぶ人は声を出すいいなーいいなーここ雪山は

- どこまでも静かに光る雪山は親子のソリを滑らせている

- 昔なら一家族の人数だ八人そろって楽しい夕餉

- ヤシオマスワラビゼンマイ岩の魚手打ちそばあり森の恵みたち

古高 利男